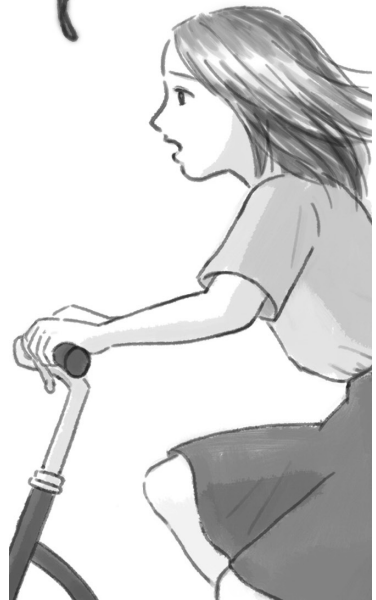


はずかしくなんて

こまつあやこ作

中原じゅん子 絵



「ここも、だめ。あそこも、だめ。いったいどこまで行けば買えるの？」

真夏の容赦ない日差しの中、上り坂でペダルをこぐ。お腹がずんと重たく痛むのに、頭まで痛くなってくる。

三か月前、わたしにもついに来た。えつと……生理が。それまでは、ひそかにあせていた。仲良しグループの結も^{ゆい}理花も^{りか}陽菜^{ひな}ほんもヨッシーもみんな来ていたから。

「二日目がつらいよねー」

なんて、結たちが教室やトイレで話し始めるたびに、大いびて見えてドキドキした。

中学生だから、もうみんな来てるよね……。

わたしはまだなのがはずかしくて、みんなの話に合わせ

てただコクコクうなずいていた。(幸い、わたしの通う女子校にはプールがなくて、体育にオール出席でもばれることはなかった。)

そんなわたしに、初めて来たのは中二の四月。これでやっと仲間入り。そう思うと、食べ過ぎたわけでもないのに痛むお腹にもちよつと感謝した。

でも、夏の暑さと重なる話は別。初めてのときのありがたみも、もう今回はうすれていた。

「あれ？ 買い置きが見つからないな……」

夏休み初日の今日。家の洗面所の戸棚をごそごそしてわたしは、お母さんに小声で聞いてみた。

「えつと、ある？ ……ナブキン」

生理の話するのは、お母さん相手でもはずかしい。わ